※令和３年度以前入学生用

学校番号	C2101

令和５年度　地理歴史科

科目	地理Ｂ	単位数	４	必要Ｓ出席数	４
使用教科書	新詳地理Ｂ，新詳高等地図　（帝国書院）				
副教材等	なし				

	年間	１範囲	２範囲	３範囲
レポート	１２枚	４枚	４枚	４枚
スクーリング	１６回	６回	５回	５回
テスト	２回	○	○	×
課題・実習等	試験の点数が低い場合、課題が課されることがあります。			

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では世界の地理について学びます。レポートは教科書から出題されるので、図表も含めてよく読んで学習をすすめましょう。スクーリングではレポートで扱う内容について理解できるよう講義を行います。最低出席回数は４回です。また、１・２範囲に行われるテストはレポートから出題されます。成績はレポート、スクーリング、テストから総合的に評価します。
学習を進める上でわからないところや困ったことがあれば、担当者まで相談に来てください。

２　学習の到達目標

① 生徒が主体的に学習に取り組む中で、地理的見方・考え方を身に付ける。
② 学習を通して、政界の各地域の成り立ちや特色を知り、国際社会への理解を深める。
③ 現代世界の地理的事象を系統地理的・地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、国際社会に主体的に生きる市民としての自覚と資質を養う。
④ 世界地理を学習する上で、諸資料を効果的に地理の探求に活用することができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・世界の地理に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことができる。 ・地理を学ぶ中で、国際社会に生きる当事者としての自覚を持ち、能動的に考える態度を身に付けている。	・世界の地域の特色や諸課題について、歴史的背景などの様々な要素と関連づけて多角的、多面的に考察し、その結果や過程を適切に表現できる。	・世界の各地域を理解するために、統計資料やグラフから、有用な情報を適切に読み取り、それらを効果的に地理の探求に活用することができる。	・国や地域によって異なる地形や気候、文化や産業などの基本的な知識を身に付けている。 ・現代世界の地理的諸課題について地球的視野から理解し、その対策や持続可能な社会の実現について考察する。
評価方法	・記述の点検（レポート） ・観察（スクーリング） ・定期試験 ・課題	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査 ・課題

● 学習指導要領(第１章第７款の４)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
● 学年末に５段階で評価する。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

範囲	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
Ⅰ	現代世界の系統地理的考察	・世界の地形 ・世界の気候 ・環境問題 ・世界の農林水産業 ・食料問題 ・世界のエネルギー ・鉱産資源	○	◎	○	◎	a:地理を学ぶ意義について考え、地理的見方考え方について関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b:世界の地形、気候、農林水産業、エネルギー資源や諸課題について地理的考察方法を用い、適切に表現できる。 c:系統地理的な内容についての資料やグラフを適切に読み取り、活用することができる。 d:世界の地形や気候の特徴や、その自然環境に合わせて成立する農林水産業、また人間生活への影響について理解し、知識が身についている。	・レポート ・スクーリング ・課題 ・定期考査
Ⅱ	現代世界の系統地理的考察（続き）	・世界の工業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏 ・世界の人口、人口問題 ・村落と都市 ・生活文化 ・民族と宗教 ・民族・領土問題	○	○	◎	○	a:世界の工業や貿易、世界の人口や都市と村落の成立、世界の生活・文化に興味を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。 b:系統地理の中でも人文地理的な内容や諸課題について考察し、適切に表現できている。 c:系統地理の中でも人文地理的な内容についての資料やグラフを適切に読み取り、活用することができる。 d:世界の工業や貿易、世界の人口や都市と村落の成立、世界の生活・文化について理解し、知識が身についている。	・レポート ・スクーリング ・定期考査
Ⅲ	現代世界の地誌的考察	・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジアと中央アジア ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア	○	○	○	◎	a:世界の国や地域に関心を持ち、国際社会に生きる自覚をもって、主体的に学習に取り組み、考えることができる。 b:世界の国や地域において、歴史的背景をふまえ、地域的特色や諸課題を考察し、適切に表現できている。 c:世界の国や地域に関する資料やグラフを適切に読み取り、活用することができる。 d:世界の国や地域の歴史的背景をふまえた地域の変容や実態、地域的特色や地球的課題について理解し、知識が身についている。	・レポート ・スクーリング ・課題

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解